

## 2 第6章「みどりの推進施策」に係る改訂

### 2-1 小田原市緑の基本計画・推進施策の改訂後の施策実績一覧

小田原市における、緑の基本計画の改訂(平成28年4月)から令和2年度末までの5年間の緑化施策の内容及び実績は次のとおりです。

施策名	事業内容	実績(平成28年～令和2年度)	施策番号
基本方針1 森・里・海のみどりと「つなぐみどり」を未来に継承します			
1-1 “まちを取り巻くみどり”(森・里・海)を守り継承します。			
(1)まちを取り巻くみどり『森』の保全・活用			
①法・条例に基づく地域指定による森林等の保全・活用			
ア)自然公園の指定と利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自然公園法」に基づき、本市西側山地の市境付近763haは自然公園(富士箱根伊豆国立公園)に指定されています。区域全域が風致を維持するために工作物の新增改築、動植物の捕獲・殺傷や植物の植栽・播種などさまざまな行為が規制される「特別地域」で、一定の行為に対しては国の許可が必要です。</li> <li>引き続き、神奈川県と連携して適正な保護と利用を図ります。</li> </ul>		1
イ)県自然環境保全地域の指定	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然公園に隣接する区域1,101.6haは、神奈川県「自然環境保全条例」に基づき、自然環境を保全することがとくに必要なものとして知事が指定する自然環境保全地域となっています。市域内は「普通地域」ですが、条例に規定する一定の行為について届出が必要です。</li> <li>引き続き、神奈川県と連携して適正な保護と利用を図ります。</li> </ul>		2
ウ)保安林制度の適正な運用	<ul style="list-style-type: none"> <li>「保安林法」に基づき、西部の山地と東部の丘陵に、水源涵養、災害防備(土砂流出防備・土砂崩壊防備・干害防備)、風致保安などの公益目的のために指定される保安林があります。それぞれの目的に沿った森林の機能を確保するため、立木の伐採や土地の形質の変更等が規制され、民有林における一定の行為については県知事の許可または届出が必要です。</li> <li>引き続き、神奈川県と連携して、保安林制度を適正に運用し、指定目的の達成に努めます。</li> </ul>		3
エ)森林計画制度の適正な運用	<ul style="list-style-type: none"> <li>「森林法」に基づき、(県内の森林整備及び保全の基本的事項について県が定める)地域森林計画で対象とされている民有林(国が所有する国有林以外の森林)4,208haについて、小田原市森林整備計画では、伐採、造林、保育等の森林整備の規範となる基本的事項等を定めています。地域森林計画対象民有林(保安林以外)で行う場合には市への事前の届出が義務づけられるなど、市による森林状況の把握と必要により指導が行われ、また、森林において面積が1haを超える開発行為等を行う場合は、森林の有する公益的機能を阻害しないよう県の林地開発許可が必要です。</li> <li>引き続き、神奈川県と連携して、民有林における適正な保全と利用の推進を図ります。</li> </ul>	<p>○平成30年度 小田原市森林整備計画策定(平成30年4月策定) (計画期間:平成30年4月1日～令和10年3月31日)</p>	4
オ)風致地区の適正な運用	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市南西部、江之浦地区の一部に広がる森林はみどり豊かな自然環境を保全するため、風致地区に指定されています。風致地区内では建築物の高さや建ぺい率、壁面の後退距離のほか、緑地率が定められており、建築物の新增改築や宅地造成、木竹の伐採等の行為は市長の許可が必要です。</li> <li>引き続き、風致地区の適切な維持・保全のため、風致地区制度の適正な運用を図るとともに、地域の実情を勘案し、必要に応じて区域や種別の見直しも検討します。</li> </ul>		5
②市民等との協働による森林の保全・活用			
ア)県水源の森林づくり事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>森林は、木材価格の低迷等から林業経営が難しくなり、手入れの行き届かない森林が増え、水源涵養機能をはじめとした公益的機能の低下が懸念される状況になっており、緊急の対策が必要となっています。</li> <li>そこで、神奈川県では、水源地域の森林を健全で活力ある状態に保ち、次世代に引き継いでいくために、公的な管理や支援により流域を単位とした面的・集中的な森林整備が図られるように、平成9年度から水源の森林エリアを設定し、「水源の森林づくり」に取り組んでいます。水源の森林づくり事業では5つの手法(協力協約、長期施業受委託、水源協定林、水源分収林、買取り)を行っています。</li> <li>引き続き、神奈川県と連携して、水源の森林づくり事業の推進を図ります。</li> </ul>	<p>○平成28年度～令和元年度 「水源の森林エリア」において、約429haの森林を整備。</p>	6
イ)水源環境の保全・再生(地域水源林整備事業)	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市では神奈川県からの補助金を活用し、計画的、主体的に森林の荒廃に歯止めを掛け、水源涵養など公益的機能を高度に発揮する森林をめざす地域水源林整備事業を実施しています。</li> <li>片浦・早川・大窪地域等は、地域の水源環境の保全・再生上重要な森林があることから、「小田原市森林整備計画書 平成25年4月1日～平成35年3月31日」に基づき、森林所有者や地元生産者組合等と連携を図り、その保全・再生について、推進を図ります。</li> </ul>	<p>○平成28年度～令和元年度 「地域水源林エリア」において、約106haの森林を整備。 (市内片浦・早川・大窪地域)</p>	7
ウ)県森林再生パートナー制度の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>神奈川県では、水源の森林づくりに対する企業などの参加協力の仕組みとして、森林再生パートナー制度を実施しています。これは、パートナーとなった企業などが、県の実施する森林整備もしくは森林所有者が実施する森林整備等の費用を負担(寄附)するとともに、県で準備したボランティアフィールドで間伐や枝打ちなどの森林整備をするものです。また、県が指定した森林をネーミングライツ森林として名称を設定することができます。県は、寄附によって進んだ森林整備による標準CO2吸収量を算定し、算定書を発行します。また、県で発行する地図にネーミングライツ森林の位置を表示するとともに、森林ボランティア活動の様子をホームページでPRします。</li> <li>市内では、鈴廣かまぼこ(株)が久野地区(26.46ha)にネーミングライツ森林を設定しています。</li> <li>引き続き、神奈川県と連携して、森林づくりの推進を図ります。</li> </ul>		8
エ)企業等との協定による森林保全の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市では、企業のCSR活動に対する取り組みを推進するため、企業・共有林の管理に関わる事務組合・市の3者による森林の保全に係る協定を締結し、森林の大切さを学ぶ講座などを開催したり、企業の従業員や家族による間伐や下草刈りなど森林の保全活動を推進しています。</li> <li>引き続き、企業等へのCSR活動に対する取り組みを支援しながら、森林保全の推進を図ります。</li> </ul>		97に 統合

施策名	事業内容	実績(平成28年～令和2年度)	施策番号
(2) まちを取り巻くみどり『里』の保全・活用			
① 農地制度の適正な運用と農地保全			
ア) 農振・農用地区域の指定	<ul style="list-style-type: none"> <li>「農業振興地域の整備に関する法律」に基づき、農業振興地域内において農業上の利用を確保すべき土地として指定された農用地区域については、その地域の一体としての農業の振興を図るために農地の転用制限を含む農業の保護措置がとられています。</li> <li>引き続き、「農地法」や「農業振興地域整備計画」に基づき、農業生産基盤の整備および違反転用の防止や遊休農地の解消等、農用地の保全等に努めます。</li> </ul>		10
イ) 耕作放棄地の解消と営農環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国的な課題として存在する輸入農産物の増加等に伴う農産物価格の長期低迷、生産者の後継者不足、高齢化に伴う労働力の低下等の問題から、本市においては、耕作放棄地が増加する傾向にあります。その対応策として、営農環境を保全するための共同活動や、耕作放棄地を解消させる取り組みの支援を実施します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農業者による耕作放棄地解消事業: 3件</li> <li>○農地の耕作放棄地化防止事業: 2地区(片浦、曾我・下曾我)</li> <li>○援農者育成講座: 片浦地区28回(その他援農3回) 曾我地区5回実施。</li> </ul>	11
② 農業・農村環境の多面的機能の活用			
ア) 農業への理解の促進と交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市では、食と農業とのつながりを見つめなおし、農業に対する市民等の理解を深め、市民等と農家との交流によりお互いを学び合える取り組みとして、地域の子どもたちとの農業体験や米や梅の収穫体験などを関係団体と連携して実施しています。</li> <li>また、本市の農村が都市と隣接することから、農村の地域資源を活用して片浦地区、早川地区、曾我・下曾我・田島地区では「みかんの木オーナー制度」、下中地区では「たまねぎのオーナー制度」を実施しています。</li> <li>引き続き、関係団体と連携しながら活動を実施します。また、農業者による都市住民との交流事業や小学校と連携した学校農園の取り組みの支援を実施します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○かながわ西湘農業協同組合と共催で、PRイベントを実施(2回/年)</li> <li>○平成29年度～令和元年度</li> <li>・みかんの木オーナー 290件</li> <li>・たまねぎのオーナー 1,030件</li> </ul>	12
(3) まちを取り巻く『海』の保全・活用			
① 法に基づく地域指定による海辺のみどりの保全			
ア) 風致地区の適正な運用	<ul style="list-style-type: none"> <li>相模湾に面する海岸の風致を維持するため、前川地区から江之浦地区にかけての海岸沿いは、風致地区に指定されています。風致地区内では建築物の高さや建ぺい率、壁面の後退距離のほか、緑地率が定められており、建築物の新增改築や宅地造成、木竹の伐採等の行為は市長の許可が必要です。</li> <li>引き続き、風致地区の適切な維持・保全のため、風致地区制度の適正な運用を図るとともに、地域の実情を勘案し、必要に応じて区域や種別の見直しも検討します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成28年度</li> <li>特定漁港漁場整備事業区域については、市街化区域編入に併せて、風致地区を解除。</li> </ul>	13
② 海岸環境の保全・活用			
ア) 小田原漁港海岸環境整備事業の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>御幸の浜周辺の海岸では、昭和23年から昭和63年の40年間で海岸線の後退が約20mにもおよび、海水浴場の砂浜の減少、海岸背後地の家屋に対する危険性が生じました。このため、平成元年度から小田原漁港海岸環境整備事業に着手し、御幸の浜から山王川にかけての約1.6kmの間に、突堤や人工リーフなどの海岸保全施設の整備を行うとともに、海舌川の飯取水堰に堆積した砂を使って養浜を行っています。</li> <li>また、平成27年3月に小田原海岸を含む「相模灘沿岸海岸保全基本計画」の改定が行われ、小田原漁港海岸の整備の方針として、浜町・本町地区はモニタリングを行いながら砂浜を維持管理し、必要に応じ適切な管理を行っています。より良い海岸環境を創造するとともに海岸利用を促進し、景観への配慮にも努めていきます。</li> <li>引き続き、神奈川県と連携し、整備の促進を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成28年度～平成30年度</li> <li>被覆ブロック及びロックマットの製作等を行い26.3m整備。</li> </ul>	14
イ) 小田原地区特定漁港漁場整備事業の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>本事業は、平成14年に神奈川県が策定した「小田原地区特定漁港漁場整備計画」に基づき、「水産資源の持続的利用と良質な水産物を安全で効率的に供給する体制の整備」、「水産資源の生息環境となる魚場等の積極的な保全、創造」、「水産物の振興を核とした良好な生活環境の形成を目指した漁村の総合的な振興」を目的に掲げ、漁獲物の一次加工や鮮魚、活魚の安定出荷など新たなニーズに対応した供給体制を確立するため、西側に埋立を含む用地造成や臨港道路等の整備が進められており、畜養水産物の陸揚げ作業と加工、流通の効率化を推進します。本市では、交流人口を拡大させることで水産の振興と活性化の拠点としての交流促進施設の整備を進めており、また、多目的広場の整備など、一体的な土地利用が進められております。</li> <li>引き続き、神奈川県と連携し、整備の促進を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成28年度</li> <li>設備の計画漁獲物荷さばき施設完成</li> <li>○平成29年度</li> <li>水産物加工処理施設完成</li> <li>○令和元年度</li> <li>1号臨港道路共用開始</li> <li>交流促進施設開業</li> </ul>	15
③ 海岸環境の美化			
ア) 海岸美化ボランティア活動等の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>(公財)かながわ海岸美化財団を中心に、自治会やNPO法人等と市民とが一体となり、海岸清掃活動に取り組んでいます。本市は、ボランティア活動用の回収袋の提供や回収物の運搬処分をするなどして、この活動の支援を実施しています。</li> <li>引き続き、これらの海岸美化ボランティア活動等の支援を実施します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成28年～令和元年度(累計)</li> <li>・海岸清掃 73回</li> <li>・参加人数約15,000人</li> </ul>	16
1-2 郊外に立地する大規模な都市公園や緑地、里山を守り継承します。			
(1) まちを取り巻くみどりの拠点育成			
① 法に基づく地域指定による自然環境の保全・活用			
ア) 石垣山一夜城の保全管理・適切な活用の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>富士箱根伊豆国立公園区域内に位置する当公園は、16世紀末の本格的な総石垣造りの山城で、小田原城と並ぶ本市の貴重な遺跡であり、国指定史跡「石垣山」に指定されています。市街地を一望のうちに収める眺望の地ともなっています。</li> <li>引き続き、自然公園および史跡としての保全管理と適切な活用の推進を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○令和元年度</li> <li>井戸曲輪の石垣保全対策工事及び井戸曲輪の石垣測量及び石垣保全対策工事実施設計を実施。</li> </ul>	17
② 森林の総合利用			
ア) いこいの森の保全・活用の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>いこいの森は、森林の持つ機能や役割についての理解を深めるとともに、森の中の休養、体験学習、交流の場を提供しています。</li> <li>引き続き、小田原こどもの森公園わんぱくらんどなど、周辺の公共施設や小中学校を中心とした教育機関、地域の林業関係者等との連携を図り、森とのふれあい施設として、保全と活用の推進を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成29年度</li> <li>新設バンガロー(3棟)の利用開始。</li> <li>○平成30年度</li> <li>「小田原市いこいの森再生総合計画」を策定。</li> <li>○令和2年度</li> <li>・新たな指定管理者(小田原市いこいの森共同事業体)による管理運営を開始。(林間キャンプ場をオートキャンプ場へ改修。)</li> </ul>	18

施策名	事業内容	実績(平成28年～令和2年度)	施策番号
③大規模な都市公園*の再整備			
ア)小田原こどもの森公園わんぱくらんど・小田原フラワーガーデン・上府中公園などの再整備の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内の大規模な都市公園のほとんどは、市街化区域の縁辺部に位置しています。このうち、小田原こどもの森公園わんぱくらんどが開設後15年、羽根尾史跡公園が開設後13年と比較的近年整備されたものですが、その他の総合公園はいずれも、開設から20年以上経過しています。</li> <li>小田原こどもの森公園わんぱくらんど・辻村植物公園・小田原フラワーガーデン・上府中公園の4公園は、老朽化した公園施設の改修に加え、社会背景の変化を反映した新たな市民ニーズへの対応、将来にわたって必要な機能を発揮し続けるためのインフラの長寿命化、利用者サービスの高度化など、さまざまな課題を抱えています。また、市を代表する都市のみどりの拠点として、市民により親しまれる公園とするともに、観光資源として各公園の特性を生かす取り組みが必要となっています。</li> <li>安全・快適に利用できる公園空間の提供に向け、良好なみどりの環境の保全・活用について、今後の整備や管理運営の方向を定め、これに基づき計画的な再整備に取り組みます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度 わんぱくらんどの駐車料金を改定し、増収益分の一部トイレの洋式化、建物の塗装、小田原城アドベンチャー周辺の滑り止めマットの交換等のリニューアル工事を実施。</li> <li>令和元年度 各公園の施設を計画的に更新を実施するため、公園施設の長寿命化計画の改定を行った。</li> </ul>	19
イ)羽根尾史跡公園の利用促進と再整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>羽根尾地区を含む旧橋地区には160基以上の横穴墓(よこあなぼ)が確認されており、久野諏訪ノ原丘陵の久野古墳群とともに、小田原地域の古墳文化を今に伝える貴重な遺跡として、その一部は市の史跡として保存されています。公園内には、6世紀後半の古墳時代後期から8世紀の奈良時代にまでおよぶ、横穴墓29基が現存しています。この公園は、上の四阿(あずまや)から相模湾を一望でき、天気の良い日には遠く房総半島も見渡すことができる丘陵地に位置していることから、説明板の設置やパンフレットの作成などにより、利用促進に取り組んでいます。</li> <li>引き続き、羽根尾地区の古墳文化を学ぶ拠点として、利用の促進を図りながら、さらなる利用者の増加を目指して再整備に取り組みます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な公園プロデュース団体と協働で東側広場周辺部の樹木整理を実施。</li> </ul>	20
④県立おだわら諏訪の原公園の整備事業の促進			
ア)県立おだわら諏訪の原公園の整備事業の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>県立おだわら諏訪の原公園は、「ふるさとふれあい公園」をテーマに、里山の自然や生活文化とのふれあいを通じて、遊びながら「学ぶ」、「発見する」喜びを体験できる公園を目指しています。園内には、足柄平野が一望できる「展望広場」、開放感あふれる芝生の「多目的広場」、太陽光発電や屋上緑化を取り入れた環境共生型の「パークセンター」、県立都市公園最長(169m)の「ローラー滑り台」などがあり、平成27年4月時点で約154haが開園しています。</li> <li>同公園と小田原フラワーガーデンとが隣接する立地を活かした市民サービスの向上が図られるよう、神奈川県と連携し、整備事業の促進を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度 小田原フラワーガーデンとの連絡通路にある門扉の改修や周辺の樹木整理を実施。</li> <li>平成30年度 県市合同でスタンプラリーによるウォーキングイベントを開催。(参加人数285名(大人143名 子供142名))</li> <li>令和元年度 参加人数260名(大人142名 子供118名)</li> </ul>	21
⑤曾我の梅林の保全・活用			
ア)梅林の観光レクリエーション利用の促進と支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市で開催されている梅まつりの時期には、市内行事としては最多の約40万人の集客があり、その中心となる観梅の場が「曾我の梅林」となっています。</li> <li>引き続き、かながわブランド農産物に指定されている梅の栽培と梅まつり等のイベント開催の支援を実施します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小田原十郎梅及びロゴマークと、しおり、梅酢の料理レシピ本を製作。</li> <li>梅の栽培講習会や、梅まつり等のイベント開催を支援。</li> </ul>	22
(2)まちを取り巻くみどりの保全・再生			
①市民等との協働による保全・再生			
ア)環境再生プロジェクトの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>本プロジェクトは、市民の身近な環境(環境美化活動、緑化活動、里地里山や生態系の保存など)を市民との協働で進めるためのプロジェクトです。地域の豊かな自然環境を守り育て、あわせて持続可能な新しい環境改善の地域文化を創造することを目指し、身近な環境再生の取り組みを推進しています。</li> <li>引き続き、環境再生プロジェクトの推進を実施します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>酒匂川植栽事業、和留沢プロジェクトを地域住民との協働で実施。</li> </ul>	23
ふるさとの森づくり運動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市では、平成15年から、毎年3月に「ふるさとの森づくり運動」実行委員会主催の植樹イベント「みんなの森をつくろう！」を開催し、公募市民や近隣の小学校の児童、保護者等の参加による「ふるさとの森づくり運動」を行っています。水源地域に広葉樹を植林し、森林内での活動を通じて、森林に親しみ、森林に対する正しい知識と理解を深めるものです。</li> <li>近年は、いこいの森隣接地などで、植林活動を実施したり、植林地の下草刈りなどの作業を実施しています。</li> <li>引き続き、ふるさとの森づくり運動の推進を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年度 参加者約350人 苗木約1,200本</li> </ul>	24
ウ)里地里山活動の支援(里地里山活動協定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成20年4月に制定された「神奈川県里地里山の保全、再生及び活用の促進に関する条例」に基づき、本市では久野、東栢山、上曾我の3地域が「里地里山保全等地域」として選定されており、それぞれの地域で活動することにより、各地域の団体が県と市から支援を受けながら、協定地における里地里山の保全や体験活動に積極的に取り組んでいます。</li> <li>引き続き、地域の団体が活動を継続できるよう、里地里山活動の支援を実施します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>神奈川県と連携を取りながら「里地里山保全等地域」に選定された3団体(美しい久野里地里山協議会、金次郎のふる里を守る会、曾我山応援隊)の活動を支援。</li> </ul>	25
②里地里山の保全に関する普及・啓発			
ア)森や木に親しむイベントの開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市では、夏休み期間を「きまつり-森と木に包まれる夏-」とし、市内各所で森や木に関連するイベントを開催しています。この期間を中心として木材利用拡大に向けた取り組みや「木育」活動の一環として、親子・地域とのふれあいや絆の育成の場を提供し、併せて森や木の大切さを広く認識してもらうことを目的としています。</li> <li>引き続き、森や木に親しむイベントの開催に取り組みます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年度 参加者 約2,000人</li> <li>平成29年度 参加者 約1,500人</li> <li>平成30年度 参加者 約500人</li> <li>令和元年度 参加者 約500人</li> </ul>	26
イ)自然観察会開催事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>団体などが主催となり、本市に生息する植物や昆虫などについて、観察会や講演会等が開催されています。</li> <li>引き続き、自然観察会の開催の支援を実施します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度 自然環境フォーラム(6月) 参加者133人 自然環境シンポジウム(2月) 参加者163人</li> <li>令和元年度 自然環境フォーラム(6月) 参加者175人 自然環境シンポジウム(2月) 参加者138人</li> <li>「小田原の自然」活用講座(自然観察会) 参加者:全8回(4.6.8回は雨天中止)延べ325人</li> </ul>	27
ウ)環境教育事業の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境再生プロジェクトなど、地域や市民団体が進めている水源林の保全・再生活動への参加を通して、子どもの森林保全意識や資源の地域内循環(地域産材の利用)への関心を高めるため、市内の小中学校や市民の方を対象とした環境教育を実施しています。</li> <li>また、きらめき出前講座など、ソフト面で学校における環境教育を支援しています。</li> <li>引き続き、環境教育事業の推進を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業実績 平成28年度:市内小学校8校、合計440人 平成29年度:市内小学校9校、合計643人 平成30年度:市内小学校8校、合計586人 令和元年度:市内小学校13校、合計972人</li> </ul>	28

施策名	事業内容	実績(平成28年～令和2年度)	施策番号
1-3 “水と緑のネットワーク”の形成の促進を図ります。			
(1) 生物生息空間の保全			
① 条例に基づく地域指定による野生の生き物の保護			
ア) 酒匂川水系のメダカの生息地、コアジサシの郷の保護	<ul style="list-style-type: none"> <li>酒匂川水系に生息するメダカは固有の遺伝子を持つ野生種で、絶滅危惧Ⅱ類(環境省。絶滅の危険が増大している種)に指定されています。また、夏鳥のコアジサシも市内において、見ることは出来ませんが、こちらも絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。</li> <li>本市では、緑と生き物を守り育てる条例に基づき、「酒匂川水系のメダカの生息地」と「コアジサシの郷」を「野生の生き物保護区」として指定しています。</li> <li>引き続き、酒匂川水系のメダカの生息地とコアジサシの郷の保護に努めます。</li> </ul>	29	
② 生物生息環境の保全・種の保存			
ア) 特定外来生物の除去	<ul style="list-style-type: none"> <li>在来生物の保護のため、特定外来生物による生態系、人の生命・身体、農林水産業への被害を防止するため「特定外来生物による生態系等の被害の防止に関する法律」が定められています。本市では、アライグマやブラックバス、オオキンケイギクなどが確認されており、捕獲等に取り組んでいます。</li> <li>引き続き、特定外来生物の除去による生態系等の維持に取り組めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小田原市アライグマ防除実施計画に基づき、アライグマの被害があった住民に箱わなを貸出し捕獲に取り組むとともに、捕獲実績のあった農地周辺においては、継続して箱わなを設置。(捕獲頭数：平成30年度：9頭、令和元年度：4頭)</li> <li>○広報おだわらに特定外来生物の除去について記事を掲載し、周知を図った。</li> </ul>	30
イ) メダカのお父さんお母さん制度の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>メダカに関する種の保存を目的に、メダカのお父さんお母さんを募集し、家庭などで飼育に取り組んでもらうメダカのお父さんお母さん制度を平成11年から開始し、登録者は延べ1700世帯を超えています。</li> <li>引き続き、本制度によるメダカの保護育成に対する意識の啓発に取り組めます。</li> </ul>	○「メダカのお父さんお母さん制度」登録者延べ2,000世帯	31
ウ) コアジサシの郷づくり事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>コアジサシは4月初旬から飛来し、7月中旬に渡りが始まるまで、酒匂川で営巣・子育てを行います。本市では保護区指定のほか、良好な環境で子育てできるように、市民参加により、営巣地となる酒匂川の中州の環境整備を行ってきました。近年は頻発する大雨や天敵のチョウゲンボウの増加などで、安定した子育て環境が得られず飛来数が減少し、保護区では営巣する姿が確認されていませませんが、保護区上流の県立大井高等学校前の中州では営巣が確認されているため、コアジサシの観察会を開催しています。</li> <li>引き続き、コアジサシの郷づくり事業の推進を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成28年度</li> <li>・コアジサシの観察会(1回 9名参加)</li> <li>・60羽の飛来と20羽のヒナ確認</li> <li>○平成29年度</li> <li>・コアジサシの観察会(1回 7名参加)</li> <li>・120羽の飛来と7羽のヒナ確認</li> <li>○平成30年度</li> <li>・コアジサシの観察会(1回5名参加)</li> <li>・130羽の飛来と50羽のヒナ確認</li> <li>○令和元年度</li> <li>・コアジサシの観察会(2回 13名参加)</li> <li>・200羽の飛来確認</li> </ul>	32
エ) サシバが営巣できる環境の再生(休耕田の復活)	<ul style="list-style-type: none"> <li>水田は多様な生物の生息場所となる身近なみどりですが、近年は後継者不足などによる耕作放棄地が増えています。</li> <li>本市沼代では市民活動団体である「サシバプロジェクト(日本野鳥の会有志)」が、サシバが営巣できる環境の再生を目指し、休耕田を水田として復活させるため、休耕田の草刈りや田植えのイベントなどを開催し、その活動を行っています。</li> <li>引き続き、サシバプロジェクトの支援を実施し、サシバが営巣できる環境の再生に取り組めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成30年度</li> <li>・田植え(6月)</li> <li>・参加者数 12人</li> <li>○令和元年度</li> <li>・中止(イベントは雨天中止となり、田植えは団体のみで実施)</li> </ul>	33
オ) 酒匂川水系保全事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>酒匂川水系保全協議会では、酒匂川の豊かな自然環境を将来の世代へと引き継ぐための取り組みを推進しています。会員は、酒匂川流域自治体関係(神奈川県、静岡県、小田原市など16団体)、農林漁業・水利関係者9団体、工場・事業場・砂利関係者64団体、計89団体となっています。(平成27年3月)</li> <li>流域が一体となって、「アユの放流体験」、「環境保全講演会」、「酒匂川フォトコンテスト」などを実施しています。</li> <li>引き続き、酒匂川水系環境保全事業の推進を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成28年度</li> <li>・「アユの放流体験」(参加者数 179人)</li> <li>・「自然体験教室」(参加者数 37人)</li> <li>○令和元年度</li> <li>・「アユの放流体験」(参加者数 170人)</li> <li>・「自然体験教室」(参加者数 23人)</li> <li>○平成30年度</li> <li>・「アユの放流体験」(参加者数 191人)</li> <li>・「自然体験教室」(参加者数 38人)</li> <li>○令和元年度</li> <li>・「アユの放流体験」(参加者数 181人)</li> <li>・「自然体験教室」(参加者数 38人)</li> </ul>	34

施策名	事業内容	実績(平成28年～令和2年度)	施策番号
(2)水辺の快適な景観形成とふれあいの場の提供			
①水辺の環境再生・美化			
ア)環境再生プロジェクト(酒匂川植栽事業)の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酒匂川植栽事業は環境再生プロジェクトの一環として進められている事業の一つです。市のシンボルであり、豊かな恵みをもたらす酒匂川の美化保全活動として、酒匂川左岸の小田原大橋付近の土手において、市民や自治会、企業や団体と連携し、植栽管理を行い“ごみを拾う”から“ごみを捨てさせない”環境づくりの意識を高めています。</li> <li>・引き続き、環境再生プロジェクト(酒匂川植栽事業)の推進を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○マイ花壇オーナー等との共同作業</li> <li>・平成28年度:除草作業2回、植栽作業1回</li> <li>・平成29年度:除草作業2回、植栽作業1回</li> <li>・平成30年度:除草作業2回、植栽作業1回</li> <li>・令和元年度:除草作業2回、植栽作業1回</li> </ul>	35
イ)河川のアダプトプログラムの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柳新田、小八幡川、下菊川、鬼柳桑原排水路で、草刈りやごみ拾いなど市民参加による河川の美化活動を実施しています。</li> <li>・引き続き、これらの美化活動を通して、河川環境の維持に対する意識の啓発を行うとともに、市民参加によるアダプトプログラムの推進を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成28年度～令和元年度</li> <li>・柳新田(参加者数約100人)</li> <li>・小八幡川、下菊川(参加者数約171人)</li> <li>・森戸川、山岸川(参加者数約60人)</li> <li>・新たに関口川(参加者数約60人)の美化活動を実施。</li> <li>・環境団体においても鬼柳桑原排水路(参加者数約70人)で、草刈りやごみ拾いなど市民参加による河川等の美化活動を実施。</li> </ul>	36
②水辺の親水機能等の保全・創出			
ア)河川環境整備事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本市北部に広がる田園地域を横に走る水路は、地域の骨格をなす空間であり、水郷のような景観を呈しています。水路は水田を潤すだけではなく、動植物の生息空間等としても重要な働きをしています。</li> <li>・しかしながら、地区のなかには耕作者の高齢化により耕作放棄地が見受けられるなど、このままの状態が放置されると水路周辺も荒廃し、水質や動植物への悪影響が懸念されています。</li> <li>・そこで水質の改善効果の予測や自然浄化・水循環の機能等、環境機能向上を前提とした護岸の整備計画を広域的に策定し、今後「かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画」に基づく水源環境保全・再生特別交付金を受け、河川環境整備事業(多自然水路整備計画策定等)を進めることとしています。</li> <li>・引き続き、他の地区においても、自然環境に配慮した河川環境整備事業の推進を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>曾比地区多自然水路整備</li> <li>○平成28年度</li> <li>牛島排水路整備 延長L=1936m</li> <li>○平成29年度</li> <li>牛島排水路整備 延長L=70.0m</li> <li>○平成30年度</li> <li>寺下排水路整備 延長L=96.6m</li> <li>○令和元年度</li> <li>牛島排水路整備 延長L=82.0m</li> <li>牛島排水路 整備済み延長L=171.6m</li> <li>寺下排水路 整備済み延長L=96.6m</li> </ul>	37
③水路等の歴史的文化的な遺産の継承			
ア)小田原用水、荻窪用水等の保全・活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小田原用水は、早川を水源として戦国時代に小田原北条氏が城下町を潤す為に設けた上水道と言われています。</li> <li>一方、荻窪用水は、全長10.3kmの農業用水路(箱根町塔之沢付近～荻窪)で、江戸時代(18世紀末)に小田原藩により開かれました。荻窪用水は平成17年に疏水百選(農林水産省)に選定され、平成23年度には日本土木学会推奨土木遺産に認定されています。また、同省がPRする「水土里の路疏水百選ウォーキング」のなかで、「荻窪用水散策コース」を案内しています。</li> <li>小田原用水や荻窪用水は、NPOなどの民間団体によりガイドブックの発行や用水を訪ねるイベントが行われ親しまれています。</li> <li>・これらの歴史的な土木遺産は、本市のまちの歴史の伝承、潤いのあるまちづくり、生物生息環境の保全など、さまざま役割を發揮する遺産となります。</li> <li>・引き続き、市民と協働し、小田原用水、荻窪用水の保全・活用に努めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成28年度</li> <li>めだかの学校水車小屋ウッドデッキ修繕</li> <li>○平成29年度</li> <li>めだかの学校水車小屋屋根修繕</li> <li>○平成30年度</li> <li>めだかの学校小壁修繕</li> <li>小田原用水の保全について検討。</li> <li>○令和元年度</li> <li>めだかの学校木橋修繕</li> <li>小田原用水については、保全に向けた基本計画の取りまとめを実施。</li> </ul>	38

施策名	事業内容	実績(平成28年～令和2年度)	施策番号
基本方針2 まちに潤いと賑わいをもたらすみどりを創出します			
2-1 生活に潤いをもたらす、みどりのまちづくりを進めます。			
(1) 法や条例に基づく民有地における緑化推進			
① 民有地の緑化推進制度			
ア) 開発事業等における植栽地の確保	<p>・本市では、「小田原市開発事業に係る手続及び基準に関する条例」に、原則として事業主は、住宅以外の建築物の建築の用に供する目的で開発事業区域の規模500㎡以上の開発事業をしようとするときは、その開発事業区域内に、同規則で定める面積割合で植栽地を配置するよう努めなければならないこと等を定めています。また植栽地は道路に面した部分に配置することや、植栽地の配置が困難な場合は、壁面または屋上による植栽地を配置することができることなどを定め、市長と協議しなければならないこととしています。</p> <p>・引き続き、同条例に基づき、植栽地の適切な配置や確保について、指導に努めます。</p>	<p>指導件数  ○平成28年度 31件  ○平成29年度 33件  ○平成30年度 30件  ○令和元年度 25件</p>	39
イ) 工場立地法による緑地等の整備	<p>・工場立地法では、敷地面積9,000㎡以上または建築面積3,000㎡以上の特定工場について、緑地や環境施設の設置、管理義務を定め、環境の保全を図りつつ、適正な立地が行われるようになっています。</p> <p>・本市では、工場周辺の生活環境への影響を最小限に抑えつつ、作業環境の維持を図るため「小田原市工場立地法第4条の2第2項の規定による準則を定める条例」を定め、緑地面積率を含む環境施設面積率を緩和しています。</p> <p>・引き続き、工場立地法の趣旨をふまえ、敷地内の緑化を促すなど、適切な運用を図ります。</p>	<p>○平成28年度～30年度  工場立地法に基づく届出  新設1件、変更10件  ○令和元年度  変更5件</p>	40
ウ) みどりの協定の締結	<p>・みどりの協定は、神奈川県「自然環境保全条例」によるものと「小田原市緑と生き物を守り育てる条例」によるものがあります。どちらも1ha以上の開発行為を対象に緑地の配置を求めるもので、協定期間は10年間としており、これまで県・市合せて17件の協定を結んでいます。</p> <p>・引き続き、みどりの協定の締結、継続に向けた更新を促します。</p>	<p>○神奈川県  3件の協定を締結。</p>	41
エ) 風致地区の適正な運用	<p>・小田原城址、城山および海岸の各地区については、みどり豊かな自然環境を保全するため、風致地区に指定されています。風致地区内では建築物の高さや建ぺい率、壁面の後退距離のほか、緑地率が定められており、建築物の新増改築や宅地造成、木竹の伐採等の行為は市長の許可が必要です。</p> <p>・引き続き、風致地区の適切な維持・保全のため、風致地区制度の適正な運用を図るとともに、地域の実情を勘案し、必要に応じて区域や種別の見直しも検討します。</p>	<p>○平成28年度  特定漁港漁場整備事業区域については、市街化区域編入に併せて、風致地区を除外。</p>	42
オ) 生産緑地地区の保全	<p>・生産緑地地区は市街地における貴重なみどりであることから、引き続き保全していきます。</p> <p>・また、農林漁業と調和し、良好な都市環境を形成している市街化区域内の農地において、適正に管理され、公共施設の整備が予定されている区域の一団であること、周辺に公園などの緑地機能を持つ土地が少ないことなどの追加要件を満たす農地については、生産緑地地区に指定し、保全に努めていきます。</p>	<p>○平成28年度  追加要件を満たす農地を、生産緑地地区に指定。  ○平成30年度  追加要件を満たす農地を、生産緑地地区に指定。  生産緑地法の改正について、説明会開催。  2回開催、参加者計102人  ・市ホームページ公開により周知を実施。  ○令和元年度  追加要件を満たす農地を、生産緑地地区に指定。  生産緑地地区の状況(令和2年3月現在)  面積:約61.3ha 箇所数:442箇所  ・特定生産緑地については、制度の周知を図るとともに、指定に関する意向確認を行い、意向を示した生産緑地を特定生産緑地に指定。</p>	43
カ) 地区計画の適正な運用と地区計画等を活用した緑地の保全・創出	<p>・一体的に整備・保全を図る必要がある区域について、地区内の建築等に関する用途や高さなどのルールを定め、開発や建築行為を規制し、その地区の特性にふさわしい良好な街づくりを誘導する制度で、現在、9地区に対して計画決定しています。</p> <p>・これらの地区計画の中には、その環境に適した緑地に対する方針を立て、みどりの保全や創出の活動に取り組んでいる地区も存在しています。</p> <p>・引き続き、地区計画制度の適正な運用と制度を活用した緑地の保全・創出を図ります。</p>	<p>○平成28年度  告示:平成28年11月 小田原漁港地区地区計画を決定  ○令和元年度  告示:令和元年9月 鬼柳地区地区計画を決定  ・緑地計画の適正配置について見直しの検討(小田原漁港地区計画)</p>	44
② 緑化関連制度の見直し検討			
ア) 緑と生き物を守り育てる条例見直し	<p>・「小田原市緑と生き物を守り育てる条例」では、緑化の推進に関する条項が設けられていますが、特に具体的な規定はありません。</p> <p>・緑化推進施策の強化・継続的な取り組みを図るため、緑の定義、緑の基本計画の位置づけ、緑化推進・協定制度、緑のまちづくり提案制度など、緑化推進に関する項目の検討を行います。</p>		45
イ) 開発事業に係る手続及び基準に関する条例・施行規則・運用基準の見直しの検討	<p>・「小田原市開発事業に係る手続及び基準に関する条例」により、原則500㎡以上の開発事業について植栽地の確保を努力義務とし、「道路に接した部分に配置するよう努めなければならない」等と定めています。</p> <p>・同条例施行規則や運用基準における接道部の緑化の配置や量などに関する項目の見直しの必要性について、より効果的な緑化に誘導することができるよう、その検討を行います。</p>		46
(2) 市民によるみどりのまちづくり推進			
① 民有地緑化の支援			
【重点施策】 ア) 「(仮称)民有地の緑化の手引き」の作成・普及	<p>・市街地におけるみどり豊かなまちづくりには、その多くを占める民有地の緑化の推進が欠かせません。個人の住宅はもちろん、店舗などの商業施設や工場などの敷地においても可能な限り緑化を推進することが望まれます。</p> <p>・将来にわたってみどり豊かなまち並みの景観を形成するに当たり、維持管理などを見越して、その規模や場所などに応じた効果的な植栽方法や樹種などについて、その緑化手法等を含めた「(仮称)民有地の緑化の手引き」を作成し、民有地の緑化について、普及を図ります。</p>	<p>○H28年度  民有地緑化の手引き「こゆるぎの小さな庭づくり」を作成し、小田原フラワーガーデン、小田原こどもの森公園わんぱくらんどなどで配布。</p>	47

施策名	事業内容	実績(平成28年～令和2年度)	施策番号
【重点施策】 イ) 民有地緑化支援制度等の創設	・住宅の道路に面した場所への樹木の植栽や生垣等による見える緑化、公開を原則とし、まち歩きやウォーキングのコース等と連携して将来の市民によるオープンガーデンにつながる住宅の庭等の緑化、工場や事業所などの一部を緑化し、ベンチなどを設置して休息できるようにして開放するなど、民有地の緑化推進に当たり、市民等の自発的な緑化を支援する制度を創設します。(例：一定の基準のもとに苗等の資材を配布する物的支援、植栽費用などの資金支援、アドバイスなどの人的支援、表彰、その他規制緩和等)	○平成30年度 29件 ○令和元年度 13件	48
ウ) 市民等による「(仮称)みどりの地域づくり提案制度」の創設	・地域住民や企業・団体がその地域にふさわしいみどりを創出する計画を作成し、市に提案し、審査を受け認定された地域で自発的な緑化を進めていく「(仮称)みどりの地域づくり提案制度」の創設に取り組みます。 ・計画を進められる緑化に関する提案事業については、民有地緑化支援制度により、物的支援や資金的支援、人材的支援を通して、地域の緑化の支援を実施します。		49
【重点施策】 エ) 都市廊政策による緑化の推進	・小田原駅周辺のまちの魅力高め、「訪れたいまち・住みたいまち」の実現に向け都市廊政策を推進しています。 ・その一環として、花とみどりあふれる街路の形成、さらなる賑わいの創出を目的とした「街なか緑化事業」を商店会との協働により平成26年度から3か年のモデル事業として実施しており、モデル事業終了後も他の商店会への波及を誘導し事業継続を目指します。 ・そのほか、建物の共同建替えによる民有地への良好な緑地空間の創出を図っていきます。 ・沿道民有地等に連続性や統一性も考慮しながらプランターや花壇を設置したり街路樹を植えるなど、花やみどりを効果的に配置することで、歩行者が回遊しやすくなる魅力的な空間を創造しています。 ・引き続き、都市廊政策による緑化の推進を図ります。	○街なか緑化事業 ・平成26年度 タイヤ街商店会 ・平成27年度 錦通り商店街 ・平成28年度 お堀通り商店街 ○みどりのまちづくりアドバイザー事業 ・平成29年度 3回 ・平成30年度 4回 ・令和元年度 2回	50
② 空き地・未利用地緑化の仕組みづくり			
ア) コミュニティガーデンづくりの支援	・市街地における空き地の増加は、雑草の繁茂による環境悪化や放火、不審者の侵入の誘発、害獣・害虫の発生、ゴミの不法投棄など、地域の防犯・環境衛生や景観の悪化等が懸念されます。 ・空き地対策の一環として、土地の利用が決まるまでの間、土地利用に関する覚書等を土地所有者と取り交わすなどの調整により、無償で土地を利活用し、市がプランターや花苗、ベンチなどを提供し、それらを商店街などが維持管理するなど、三者の協働により、交流や憩いの場となるコミュニティガーデンづくりの支援を行います。		51
③ 水路等の歴史的文化的な遺産の継承			
(3) 緑化モデルとしての公共施設の緑化推進 No.38再掲			
① 公共施設の敷地の緑化			
ア) 「(仮称)公共施設緑化ガイドライン」の作成と緑化推進	・市民が利用する市役所などの公共施設における植栽は、市民がふれあう機会も多いことから、良好なみどりの創出が望まれています。また、このような身近なみどりが良好に保たれることは、市民のみどりに対する愛着を持ってもらうことにつながります。 ・公共施設に良好なみどりが創出できるよう、新たに公共施設を整備する場合や既存の施設において取り組める緑化など、状況に応じて取り組むための(仮称)公共施設緑化ガイドラインを作成し、公共施設における緑化の推進を図ります。	○平成29年度 桑原内道路跡地に景観植物を植付 ○平成30年度 高田内、寿町地区の市道植樹帯に景観植物を植付	52
イ) 市立学校等の校庭(園庭)の芝生化の推進	・校庭・園庭の芝生化は、児童生徒の運動における安全性の確保や体力向上、また、砂塵防止や気温上昇抑制効果が期待できることから、平成21年度から芝生化を開始し、下府中小学校、新玉小学校、東富水幼稚園、酒匂幼稚園、下中幼稚園、矢作幼稚園、報徳幼稚園について全面芝生化に取り組みました。今後、「小田原市学校施設整備基本方針(平成26年2月)」に基づき、部分的な芝生化も視野に含め、検討を行います。	○平成29年度までに、2校5園の全面芝生化及び4校の部分芝生化を実施。	53
ウ) 植栽の適切な管理の推進	・市役所や各地域に存在する支所、連絡所などははじめとする施設や道路、河川、公園など、公共施設の敷地内における植栽の適切な管理について、「(仮称)公共施設緑化ガイドライン」に基づき、みどりの質の向上に取り組んでいきます。また、公共施設の植栽を適切に管理することは、民有地の緑化の推進を先導する役割も担うため、その取り組みに対して、実施報告やその成果について、市のHPなどを通じて、PRすることで緑化活動の推進を図ります。 ・引き続き、公共施設の敷地内における植栽の適切な管理の推進を図ります。	○平成30年度 城山公園内の繁茂した樹木の間伐や幸田口通りの繁茂した低木をオカメザサに植替。	54
② 道路空間の緑化(街路樹の整備・管理の再構築)			
【重点施策】 ア) 「(仮称)街路樹の整備・維持管理ガイドライン」の作成	・街路樹は、最も身近なみどりのひとつであり、潤いのある景観や都市の風格をつくるなどまちの印象に大きく影響を与えます。しかし、樹木の成長に伴い、鳥害(糞による悪臭や汚損、鳴き声による騒音)や、根上りによる歩道の損傷、道路標識や信号機等の視認性の低下など、様々な問題が発生しています。また、近年では、台風等での倒伏による被害の発生や、本来の樹形と大きく異なった樹木による景観の悪化なども懸念されています。 ・このような街路樹の課題に対し、市道を対象とした改善や整備のためのガイドラインを作成します。 ・ガイドライン作成にあたっては、市で作成した「街路樹の整備・維持育成管理基準」および「街路樹の整備・維持育成管理マニュアル案」を基に、国交省が策定した「道路緑化技術基準(平成27年3月改正)」の新たな視点も反映しながら作成します。	○平成30年度 「小田原市街路樹の管理目標樹形案」を作成。	55
【重点施策】 イ) 街路樹の再整備・改善の取り組み	・街路樹の点検や周辺環境調査を実施し、交通障害や生活への被害状況、事業効果等に基づき、取り組みの必要性の高い幹線市道等を対象とし、計画的な再整備・改善に取り組めます。	○平成30年度 街路樹剪定年間管理業務委託の仕様書に、新たに管理目標樹形を定めた。	56

施策名	事業内容	実績(平成28年～令和2年度)	施策番号
③市民協働によるみどりの整備・管理			
ア)「(仮称)おだわらマイツリー制度」の創設	・多くの市民や企業に街路樹に関心を持っていただくため、街路樹に名前やメッセージを添えた樹名板の取り付けなどを行っていただき、参加した市民や企業より、緑化活動を支える費用としてふるさとみどり基金に寄付(募金)していただく「(仮称)おだわらマイツリー制度」の創設に取り組みます。	○令和元年度 利用者の多い、小田原フラワーガーデン、小田原こども森公園わんぱくランドなどへの募金箱の設置について、指定管理者と協議を実施。	57
イ)校庭(園庭)の芝生化に関わる市民管理の仕組みづくり	・校庭(園庭)の芝生化を推進するためには、継続的な維持管理(水撒き、芝刈り、施肥、補植等)のために維持・管理設備、ランニングコスト、人員の確保が必要となります。 ・芝生化推進にあたり、学校や地域の理解、協力体制の構築など仕組みづくりに取り組みます。	○平成30年度 市民団体(NPO法人)への部分委託化を実現。	58
ウ)公共施設のみどりの育成に関わる市民協働の推進	・公園や公民館の敷地で花苗の植栽活動を行っているグリーンライフサークルの制度体制を見直し(※)、市民や団体等がみどりのまちづくりに関わる機会を増やし、必要に応じて、道路や河川などの美化ボランティア活動や身近な公園プロデュース事業など、他の公共施設への拡大の可能性の検討を行います。 ・また、各種講習会等を通して、参加市民を拡大していく制度を構築し、市民協働の推進を図ります。 ※守る(樹木観察、病害虫の発見など)、育てる(施肥、根元管理など)、広める(開花情報の発信、仲間づくり、樹名板の作成、マップ作成など)、学ぶ(守り育てる講習・実習会など)の一連の活動を用意し、参加可能な部分に参加するなど。	○平成30年度 道路に設置したプランターや花飾りの管理サポーター制度を開始。	59
2-2 みどりの効果的創出による賑わいのあるまちづくりを進めます。			
(1)歩いて楽しいみどりのまちづくり			
①歩行空間の緑化			
ア)中心市街地におけるみどりの回廊づくり	・本市では、現在、三の丸地区整備の検討、都市廊政策を進めています。また、銀座・竹の花周辺地区では、本市初の街づくり(ルール形成促進条例)に基づく協議会の街づくり基盤が認証(平成22年2月)され、「小田原市歴史的風致維持向上計画」に「銀座・竹の花周辺地区における街なみ環境の向上」事業として位置づけています。なお、これらは、「小田原市中心市街地活性化基本計画」に基づく事業としても位置づけています。 ・お城通りは、「小田原駅東口お城通り地区再開発事業」の中で、駅とお城を結ぶみどり豊かな歩行空間を確保するため、緑化歩道(幅員5m)の整備を進めます。 ・都市廊政策については、内々環状道路の区域内を対象とし、回遊性の向上と街なかの活性化を図ることとしています。緑化施策については、魅力ある商店街づくりの視点から、商店会等と連携した街なか緑化モデル事業を、平成26年度は小田原ダイヤ街商店会、平成27年度は小田原錦通り商店街協同組合にて実施し、平成28年度はお堀端通り商店街振興組合での実施を予定しています。また、モデル事業終了後も他の商店会への波及を誘導し事業継続を目指します。 ・銀座・竹の花周辺地区は、旧甲州道沿いに位置し、歴史的なまち並みや建造物が残る地区であり、この歴史文化やなりわいの感じられる歴史的なまち並み景観を形成することとしています。街路樹整備、小広場の整備等について検討するほか、国の社会資本整備総合交付金における「街なみ環境整備事業」を活用し、建築物等の修景整備に係る経費の一部を助成するなど、地域の自主的な景観形成の支援を実施します。 ・引き続き、中心市街地の魅力あるまちづくりとして、みどりの回廊づくりに取り組みます。	○平成28年度 ・お城通り(市道2216)歩道部分は、おだわら市民交流センター-UMECO周辺を整備。 ・街なみ環境整備事業補助金を活用し、銀座・竹の花周辺地区の店舗2件を修景。 ○平成29年度 ・広域交流施設ゾーン前面の小田原城側の歩道部分の整備が完了し、供用開始。 ・街なみ環境整備事業補助金を活用し、銀座・竹の花周辺地区の店舗1件を修景。 ・商店会等と連携した街なか緑化モデル事業を推進し、小田原ダイヤ街商店会を含む3商店会等で緑化施策を実施。 ○平成30年度 ・街なみ環境整備事業補助金を活用し、銀座・竹の花周辺地区の店舗2件を修景。 ・まちなか緑化助成事業補助金により、29件の緑化推進を実施。 ○令和元年度 ・街なみ環境整備事業補助金を活用し、銀座・竹の花周辺地区の店舗1件を修景。 ・まちなか緑化助成事業補助金により、13件の緑化推進を実施。	60
イ)「(仮称)まちはなみどりスポンサー花壇事業」の推進	・「基本方針5-2(1)②みどりに係るCSR活動の場の提供」において詳述する「(仮称)まちはなみどりスポンサー花壇事業」の推進について駅周辺を歩いて楽しいまちとするためのCSRによる展開の推進を図ります。	○令和元年度 4基	61
ウ)大型店における緑化の推進	・本市では、「小田原市事業者等の地域貢献に関する条例」を定め、大型店(大規模小売店舗立地法第2条2項に規定する大規模小売店舗)を設置する者等へ地域貢献事業の実施に関する計画および実施報告を義務付けています。この中で、「自然環境及び生活環境に配慮した取り組み」について定めています。 ・引き続き、大型店の敷地内等における緑化等の好感の持てる空間について、維持・保全の推進を図ります。		62
②空き地・未利用地緑化の仕組みづくり			
ア)コミュニティガーデンづくりの支援	No.51再掲		51再掲
(2)みどりのシンボルとしての城址公園の整備・植栽管理			
①城址公園の整備・植栽管理			
ア)城址公園の整備の推進	・城址公園は、「本丸・二の丸整備基本構想」に基づき史跡小田原城跡として、歴史的景観の復元的整備を進めるための調査審議組織として、史跡小田原城跡調査・整備委員会を設置しています。 ・引き続き、史跡小田原城跡としての魅力を高めるとともに、城下町おだわらのシンボルとして、多くの人々を迎えるみどり豊かな公園として、「史跡と緑の共生」を念頭に置き、整備の推進を図ります。	○平成30年度 北西土塁を修景整備開放	63
イ)城址公園における適切な植栽管理の推進	・城址公園内には多くの樹木があり、小田原駅周辺地区においてまとったみどり豊かな公園となっていますが、一部で繁茂した樹木により天守閣が見えづらい状況にあたり、石垣や地下遺構にも影響を与える可能性があるなど、本丸・二の丸周辺のみどりのあり方について、さまざまな課題が指摘されてきました。 ・また、県内では老朽化した樹木が相次いで倒れていることから、観光施設である城址公園内でも来園者の安全を確保するため、適切な樹木管理を行なうとともに、天然記念物に指定されている古木については、保護していく必要があります。 ・そこで、史跡小田原城跡における史跡整備の植栽管理をどのように進めていくのか協議・検討する組織として、史跡小田原城跡調査・整備委員会植栽専門部会を設置しました。 ・引き続き、小田原城の魅力が高められるよう「史跡と緑の共生」を目指し、適切な植栽管理の推進を図ります。	○平成30年度 現状の植栽を活かす形でモデル的な修景整備を実施。 ○令和元年度 巨松の整枝剪定や常盤木坂横のイヌマキの修景を実施。	64



施策名	事業内容	実績(平成28年～令和2年度)	施策番号
基本方針3 小田原ならではの歴史文化を支えるみどりを育てます			
3-1 歴史的文化的な遺産と一体となったみどりを保全し、活かします。			
(1) 歴史的風景の残るまち並みの保全・環境整備による都市ブランド力の向上			
① 総構関連史跡と一体的なみどり・地形の保全			
ア) 都市公園区域における史跡の保全管理・活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>「史跡小田原城跡八幡山古郭・総構保存管理計画(平成21年度)」において、城郭環境保全域を定め、このエリアの保存管理を推進し、必要に応じ文化財保護法に基づき保全が図られる史跡として新たに指定し、または史跡に準じて保全する「遺構保全域」と、遺構と調和した景観や眺望を維持する「景観保全域」とに区分し、保存管理と環境保全の考え方を示しています。</li> <li>都市公園「城山公園」の区域には、史跡指定部分を含む「遺構保全域」と「景観保全域」とがあるため、遺構と都市公園利用との調整をしっかりと整理する必要があります。原則として城山公園内の「遺構保全域」は遺構保存を前提とし、「景観保全域」は、地形や歴史的景観、眺望等を都市公園区域として保全しつつ、史跡の価値や保護の意義を伝える場とし、慰霊塔周辺を中心として魅力を高める整備を行います。</li> </ul>	○平成29年度・城山公園を「海と城の見える丘」と命名し	65
イ) 城郭環境保全域、景観保全域におけるみどりの景観と地形の保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>上記計画において、景観保全域の景観保全管理手法については「条例等を用いて、現状の景観に悪影響を及ぼす行為や地形の変更は制限を図っていく」としています。</li> <li>都市公園区域や風致地区など法的な規制がなく、みどり豊かな環境を形成している景観保全域については、その価値や意義について市民の意識の向上を図るとともに、緑の環境保全地区(小田原市緑と生き物を守り育てる条例)の指定や保全配慮地区(都市緑地法)等などの導入の検討を行います。</li> </ul>		66
② 歴史的風景の拠点と一体のみどりのまちづくり			
ア) みどり豊かな歴史的まち並みの保全・形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>「歴史的風致維持向上計画」において、歴史的風致の維持及び向上のため、「歴史的風致の核となる建造物の保存・活用の推進」(清閑亭や松永記念館等歴史的風致形成建造物、史跡小田原城跡等)や「歴史的風致の残るまちなみの環境整備の推進」(案内板、小田原文学館等)を行なっています。また、都市計画制度による高度規制、景観法・景観条例に基づく景観計画に定める建築物、工作物の形態・意匠・色彩の規制により、歴史的な風致の保全を図ることとしています。</li> <li>これらの歴史的風致の拠点施設や沿道修景、建造物等の形態等のコントロールと併せて、歴史的風致を維持するみどりの保全や創出を図ることが必要です。そこで、板橋地区や南町・本町地区、城山地区、国府津・前川地区等の良好な住宅地において、地域制緑地の導入検討や、国登録有形文化財等や市指定の小田原ゆかりの優れた建造物と一体となったみどりの保全・活用方策について、検討を行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成30年度 <ul style="list-style-type: none"> <li>まちなか緑化助成事業補助金を活用し、プランター6基(W=50cm)を地元まちづくり協議会が設置した。</li> <li>市道2035の景観舗装工事及び横断線地中化工事委託などを実施。</li> <li>歴史的風致形成建造物改修整備費補助金を活用し、店舗2件の修理・復元を実施。</li> </ul> </li> <li>○令和元年度 <ul style="list-style-type: none"> <li>市道2035の景観舗装工事を実施。</li> <li>景観形成修繕費補助金を活用し、かまぼこ通り地区の戸建て住宅1件を修景。</li> <li>歴史的風致形成建造物改修整備費補助金を活用し、店舗1件の修理・復元を実施。</li> <li>皆春荘について、歴史的建造物活用計画を策定するとともに、主屋の耐震診断(耐震等基本設計を含む)を実施</li> <li>平成30年度に実施した歴史的建造物活用エリアコーディネートプランに基づき、民有物件を含む8つの歴史的建造物及び公有地(空地)の利活用を推進するために、歴史的建造物活用計画を検討するとともに、皆春荘及び旧松本剛吉別邸については、建造物の耐震診断(耐震等基本設計を含む)を実施し、耐震改修の必要性を確認した。なお、これらの建造物は別邸として庭園を擁したのも多く、特に皆春荘についてはレストスペースとしての活用となっている。</li> </ul> </li> </ul>	67
イ) 市民との協働によるみどりの管理手法の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>上記の歴史的風致を維持するみどりについては、まちづくりルールの設定などによる市民との協働による保全・活用の仕組みづくりの検討を行います。</li> </ul>		68
(2) 市の歴史的資産である神社仏閣等の巨樹・古木の保存			
① 法・条例に基づく樹木・樹林の保存			
ア) 天然記念物の適切な保護	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内には、天然記念物として、「文化財保護法」に基づく国指定天然記念物が1件(早川のビランジュ)、「神奈川県文化財保護条例」に基づく県指定天然記念物が3件(県立小田原高等学校の樹叢ほか)、「小田原市文化財保護条例」に基づく市指定天然記念物が21件(御感の藤、長興山の枝垂桜、前川近戸神社の社叢ほか)の計25件があります。</li> <li>引き続き、天然記念物の指定を受けた樹木・樹林の保護について、支援を実施します。</li> </ul>	○天然記念物 計25件 国指定天然記念物1件、県指定天然記念物3件、市指定天然記念物21件	69
イ) 保存樹・保存樹林の適切な保護	<ul style="list-style-type: none"> <li>「小田原市緑と生き物を守り育てる条例」において、「都市の美観風致を維持するための樹木の保存に関する法律」に定める基準に基づき、保存樹に149本、保存樹林に14か所を指定しています。</li> <li>引き続き、市街地における貴重なみどりとして、指定を受けた保存樹・保存樹林の保護について、支援を実施します。</li> </ul>	○保存樹:135本、保存樹林:13箇所の所有者に奨励金を交付。	70
② 地域のシンボルとしての保存樹・保存樹林の良好な維持			
ア) 地域のシンボルとしての指定保存樹・保存樹林の市民への啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>保存樹はほとんどが高さ10m以上、幹回り1.5m以上の巨樹であり、保存樹林とともに地域のランドマークとして存在感を示しています。</li> <li>その多くは神社仏閣をとりまく社寺林として長い年月を経た歴史的なみどりであり、社寺の多い本市の特徴的なみどりでもあります。</li> <li>これら保存樹・保存樹林については、市民全体で保全していくべき貴重なみどりとして捉え、その価値や保存の意義について、市民への啓発を図ります。</li> </ul>		71
(3) 田園景観の保全・活用			
① 水田・水路網の保全・活用			
ア) 河川環境整備事業の推進	No.37再掲		37再掲

施策名	事業内容	実績(平成28年～令和2年度)	施策番号
基本方針4 まちの安全・安心の向上と多世代交流、地域活動に貢献する公園づくりを進めます			
4-1 身近な公園や緑地の拡充を図ります。			
(1) 都市公園の適正配置			
① 均衡ある都市公園 <sup>*</sup> の配置			
【重点施策】 ア) 既存ストックや遊休地等を活用した均衡ある公園の配置	<p>・今後の公園の整備は、整備水準(市民一人当たり公園面積、誘致圏域からみた公園の充足率)やレクリエーション機能を有する広場や緑地、将来の人口推移等を考慮して特定された「公園未充足地区」を優先的に市内の公園の整備を推進します。その整備にあたっては、長期借地による借地型公園での整備手法の検討や、遊休地や既存のみどりの広場、生産緑地地区等の積極的な活用を図っていきます。この地区に該当しない地域の「公園空白地」や特定の機能が不足する地区では、既存ストックや公園用地の提供相談などを活用し、必要に応じて整備していきます。また、開発行為に伴う協議においては、地域に必要とされる公園の設置を求めていきます。</p> <p>・なお、生産緑地地区は、平成34年度にそのほとんどが指定から30年が経過すると買取りの申出が可能になりますが、公園や緑地、公共空地の敷地の用に供することを目的として、市の買取り希望が他の者より優先されることなどを考慮し、買取りの申出に対し迅速な対応が取れるよう生産緑地地区の活用方を定め、体制づくりに取り組めます。</p> <p>・また、市内には都市計画決定した後、長期未着手となっている都市計画公園(中央公園、板橋公園、河原公園のうち一部区域)が存在しています。これらの公園の一部区域については、「都市計画公園・緑地見直しのガイドライン(平成27年3月神奈川県策定)」に基づき、市域における公園の配置状況を考慮し、社会情勢の変化や地域の実情などに応じて見直しを行います。</p> <p>・これらの取り組みにより、公園の充足感の向上とあわせ、均衡ある公園の配置を目指します。</p>	<p>○平成29年度 河原公園の長期未着手区域について、廃止に関する都市計画変更を実施。 ○平成30年度 公共施設の広場を活用し、川東タウンセンターマロニエふれあい公園を設置。</p>	72
【重点施策】 イ) 開発行為等による提供公園の配置基準の見直しの検討	<p>・開発行為等における公園の設置について、「都市計画法」および「小田原市開発事業に係る手続及び基準に関する条例」により、原則として3,000㎡以上の住宅の建築の用に供することを目的とした開発行為等に対し公園の配置が義務づけられていることから、公園がすでに整備されている地区において、利用者ニーズに合わない狭小な公園が設置される可能性がありますが、狭小であっても利用者ニーズに合った公園等が求められている地区もあります。</p> <p>・適切な配置と量を維持するため、同条例施行規則における、公園の設置の特例等に係る基準の見直しの必要性について、その検討を行います。</p>		73
(2) 誰もが利用しやすい親しまれる都市公園づくり			
① 安全・安心な都市公園づくり			
ア) 身近な公園における老朽化施設改修の推進	<p>・本市では、開設から20年を経過した都市公園が全体の3分の2にのぼっていることから、老朽化した遊具の更新工事を計画的に進めています。</p> <p>・遊戯施設については、平成26年度に策定した「小田原市公園施設長寿命化計画」に基づき、改修・更新を行っていますが、老朽化したその他の施設(フェンスなど)の改修は進んでいません。</p> <p>・遊具だけでなく、その他の施設を含め老朽化した遊具の更新に取り組むとともに、施設更新の事業効果をより効果的に発揮するため、地域の自治会などとの意見交換を行いながら、公園施設全体の老朽化対策を進めます。</p>	<p>○令和元年度 身近な公園4公園で、6基の遊具更新を実施。</p>	74
【重点施策】 イ) 公園空間および公園施設の安全・安心の確保	<p>・老朽化した遊具に対する更新工事や公園施設の段差解消などによるバリアフリー化、樹木の成長等に対する剪定作業による死角の解消など、公園の改修や管理は防犯上の対応を含め安全・安心を確保するうえで必要不可欠です。また、近年公園の利用に関するルールやマナーが守られていないことから発生する公園施設の汚損や破損などが発生しています。</p> <p>・必要に応じた整備や管理、公園を利用するうえでのルールやマナーの啓発活動などを通して、公園空間および公園施設の安全・安心の確保に取り組めます。</p>	<p>○毎年 公園を安心して安全に利用できるように樹木整理を実施。 公園利用のルールやマナーについて公園への掲示や、職員が利用者へ指導するなどの啓発を実施。</p>	75
② 計画的な都市公園再整備			
【重点施策】 ア) 「(仮称)身近な公園リニューアル事業」の実施	<p>・本市では、開設から20年を経過した都市公園が全体の3分の2にのぼっていることから、老朽化した遊具の更新工事を計画的に進めています。</p> <p>・少子高齢化や人口減少などの影響による周辺環境の変化や利用者層の変化に伴い、既存の公園の実態と求められるニーズとの間にミスマッチが起きており、市民のニーズなど社会的要請への対応が必要となっています。</p> <p>・遊具更新工事の効果をより発揮するため、地域の自治会などと意見交換を行いながら、遊具のみでなく、その他の公園施設を含め、地域が必要としている公園へのリニューアルの実施について、計画的に取り組めます。</p>	<p>○令和元年度 身近な公園4公園で、6基の遊具更新を実施。</p>	76
4-2 市民とつくり育てる身近な公園づくりの拡充・強化を図ります。			
(1) 市民が愛着を持てる都市公園づくり			
① 市民とつくる身近な公園の拡充			
【重点施策】 ア) 身近な公園プロデュース事業の普及・啓発	<p>・現在、身近な公園プロデュース事業については、9団体が登録し、13公園において花壇の設置やその後の手入れなどの活動を実施しています。市のホームページで参加者の募集と同時に、事業説明や実施事例の紹介を掲載しています。</p> <p>・都市公園への愛着や事業の拡大を目指し、情報発信の方法について、より効果的な方法を検討し見直しを図ったうえで、引き続き、身近な公園プロデュース事業の普及・啓発を図ります。</p>	<p>○平成30年度末現在：34公園(36団体) ○令和元年度末現在：48公園(50団体)</p>	77
【重点施策】 イ) 都市公園におけるニーズ調査	<p>・現在の都市公園のあり方について市民に調査した結果、「自然が多い公園が良い」、「日影がある公園が欲しい」、「動植物などと触れ合える公園が欲しい」など様々なニーズがありました。こうしたニーズと既存の都市公園の機能との間に大きな差があることが都市公園の利用者の減少などにつながっていると考えられます。</p> <p>・既存の都市公園の再整備および新規の都市公園の整備などにおける基礎データとして、地域自治会や子ども会などと連携し、利用者のニーズ調査に取り組んでいきます。</p>	<p>・毎年、アンケート調査を実施 ○平成29年度 小田原こどもの森公園わんぱくらんどにおいて、利用者アンケートを反映し、遊具の種類やカラーを決定し更新。</p>	78
② 市民のプロデュース力の向上			
ア) 「(仮称)公園プロデュース講習会」の開催	<p>・身近な公園プロデュース事業へ参加している登録団体を対象とし、公園プロデュース力向上のため、公園の計画や管理についての基礎を学ぶ講習会の開催に取り組めます。</p> <p>・この講習会の開催を通じて、公園づくりに意欲のある人材発掘や仲間づくり、修了生による公園プロデュース団体構成の促進など基盤づくりにつなげます。</p>		79

施策名	事業内容	実績(平成28年～令和2年度)	施策番号
4-3 多世代交流や地域活動、市民ニーズを活かした公園づくりを進めます。			
(1) 都市公園での多世代交流の促進			
① 都市公園整備への市民参加			
【重点施策】 ア) 都市公園整備時における地域の住民意見の反映	・既存の都市公園の再整備および都市公園の新規整備に際して、整備後に公園への愛着を持っていただけるように、多世代にわたる利用者のニーズを把握し、整備に取り組んでいきます。 ・住民の意見の反映にあたっては、地域の自治会や子ども会などと連携し、整備に当たりワークショップを行うなど、計画の段階から地域住民との交流が図られるような仕組みづくりの検討を行います。	○平成29年度 ・小田原こどもの森公園わんぱくらんどにおいて、利用者アンケートを反映し、遊具の種類やカラーを決定し更新。 ・森戸公園において、地域住民の意見を反映し、「うんてい」から健康遊具に更新。 ○平成30年度 地元自治会や商店会と協議、決定した内容を踏まえ、公共施設の広場を活用し、川東タウンセンターマロニエふれあい公園を整備。 ○令和元年度 地域住民の意見を反映し、森戸公園の健康遊具をスウィング遊具に更新。	80
② 都市公園での多世代交流の促進			
ア) プロダクティブエイジングの推進	・本市では、元気なシニア層の力を地域の活力につなげていくプロダクティブエイジングを推進しています。 ・シルバー人材センター等の団体からの協力により、元気なシニア層の力を活かして地域のコミュニティの場の一つでもある都市公園の維持管理などに取り組み、子どもたちとの交流の機会をつくるなど、都市公園での多世代交流を促進します。		81
イ) 都市公園を地域活動の拠点とした多世代交流の促進	・身近な公園として各地域に存在する都市公園では、納涼祭などの地域の祭りやベタンクやドッジボールなどのスポーツ大会、昔ながらの遊びなどを通じ地域の親睦を深めるための交流会、地域の防災力を高める防災訓練などにより活用されており、小田原こどもの森公園わんぱくらんどや小田原フラワーガーデンなどを中心とした大規模な公園では、木工教室やみどりに関するイベントなどが開催されています。都市公園では多くの世代が活動する場として利用され、その活動を通して多世代にわたる人と人との交流が生まれています。 ・引き続き、既存の都市公園を活用した多世代交流の促進を図ります。	○令和元年度 公園内行為許可：150件	82
(2) 公園空間の利活用の促進			
① 市民団体等による都市公園利活用の促進			
ア) 市民等の都市公園の利活用の促進	・小田原フラワーガーデンのトロピカルドームは環境事業センターからの排熱を利用しており、環境と自然を学べる場でもあることから、公園は環境教育や自然学習の場としても非常に有効なツールです。また、上府中公園では、サッカーや野球など本格的なスポーツ利用、子育て中の親子連れによるグループ利用、高齢者が健康増進を目的としてジョギングを楽しむなど、都市公園は多様なニーズに対応する貴重な広場となっています。 ・このような都市公園が持つ個性や特徴について、認知していただくための情報発信を強化したり、より利用しやすい都市公園となるよう、利用者のニーズ調査と併せた整備を実施するなどの手法を用いて、都市公園の利活用の促進を図ります。	○小田原フラワーガーデン利用実績 ・平成29年度 11小学校、559人 ・平成30年度 12小学校、685人 ・平成31年度 15小学校、861人	83
イ) 都市公園における提案型協働事業制度の活用促進	・市民団体との協働事業として、子ども達の自主性や創造性を育む遊びを提供するプレイパークを実施しています。また、上府中公園においては、指定管理者の自主事業としてもプレイパークを導入し、開催しています。 ・幼稚園や小学校などの遠足での利用や社会福祉施設などによるシニア世代の健康づくりなど、市からの働きかけを強化し、さまざまな団体等による公園の利活用の促進を図ります。	○プレイパーク実績 ・平成28年度 6回 ・平成29年度 9回 ・平成30年度 10回 ・令和元年度 10回	84
4-4 市民の安全・安心の向上に寄与する公園の防災機能等の強化を図ります。			
(1) 地域の防災性向上			
① 都市公園における災害への防備			
ア) 身近な公園(街区公園※)における防災機能の確保の支援	・多くの街区公園では、自治会等による防災倉庫等が設置されるなど、身近な防災スペースとしても機能しています。 ・引き続き、街区公園において、地域住民のニーズと非常時における自治会等の体制に即した災害防備に対応し、防災機能の確保について支援します。	○防災倉庫の占用用許可実績 ・平成28年度 5件 ・平成29年度 5件 ・平成30年度 2件 ・令和元年度 9件	85
イ) 都市公園における災害時の対応	・地域防災計画において、都市公園12か所は、ヘリコプター臨時離着陸場や応急仮設住宅候補地等に位置づけられ、重要な防災拠点としての機能を担っています。 ・震災や火災等の災害発生時には迅速な対応が迫られることから、緊急時に支障なく使用できるよう、日常の管理により、適正な状態を維持するよう努めます。	○公園プロデュースの登録団体 ・平成28年度 17件 ・平成29年度 9件 ・平成30年度 9件 ・令和元年度 9件	86

施策名	事業内容	実績(平成28年～令和2年度)	施策番号
基本方針5 市民・企業・行政がともにみどりを育む取り組みを進めます			
5-1 みどり豊かな小田原を育む地域の人材育成を行います。			
(1)緑化に関する市民等の興味・関心の育成			
①緑化に関する普及・啓発			
ア)花とみどりの講習会の拡充	・本市の「みどりの拠点」である小田原フラワーガーデンにおいて、植物学学習の推進のため指定管理者が植物や園芸に関する技術・知識を習得するための各種講座を開催しています。今後は、指定管理者との協議により、講座の質を高めるとともに、初心者向け講座の開催により緑化に興味をもつきっかけとなるものまで学ぶ機会を拡充することで、花やみどりのファンやガーデナーを増やすとともに、花やみどりの知識と技術力の向上につながる仕組みをつくり、みどりのまちづくりへの関心を高めます。	○平成30年度 成人向けの花苗育成講習会2回実施。 ①ペチュニア(5月播種 参加者49人、6月移植 参加者43人) ②パンジー(7月播種 参加者61人、9月移植 参加者48人) ○平成28年度～令和元年度 幼児期から花とみどりに触れ合う機会を与える教育(花育)を、公立保育園5園に加え、市立幼稚園6園を対象に実施。	87
イ)きらめき出前講座の活用	・本市では、市内在住・在勤・在学の方を対象に行政の取り組みや職員の専門知識を活かしたお話をお届けする「きらめき出前講座」を実施しています。 ・現在、みどり分野における講座は「みんなの公園」、「身のまわりに花と緑を増やそう」の2講座を用意しています。公園の利用マナーや遊び方など児童を対象とした基礎的なものから、季節の花やみどりの管理方法などの専門的な知識を習得したい方向けのものまで、そのレベルや対象者に合わせた内容の見直しを図り、出前講座の実施による緑化の普及・啓発に努めます。	○緑化の魅力や効果などみどりに関する取り組みを検討したい団体に対して、専門家を派遣する制度「みどりのまちづくりアドバイザー制度」を実施。(実績2件) ①みどり公園課(2月 城山公園等の樹木管理、市内街路樹の経過確認) ②お姫端商店街振興組合(3月 植栽手入れ実地講習)	88
ウ)まちぐるみ花とみどりイベントの実施	・本市では、うめ、さくら、あじさい、花菖蒲、菊花と、四季の花に応じたイベントが開催されています。これら花の名所での観賞イベントを活用し、緑化の啓発につながる企画を実施します。 ・また、全国的な都市緑化推進運動(4～6月)または都市緑化月間(10月)などの期間に合せ、小田原フラワーガーデンや辻村植物公園、上府中公園などにおいて、企業協賛、市民ボランティアとの協働により「みどりを知る・学ぶ・創る・育てる・公開する」などをテーマとしたイベントを開催するなど、その仕組みの検討を行います。		89
②市民・企業の緑化活動の支援			
ア)グリーンカーテンの普及・啓発	・平成23年度から、家庭でできる身近な省エネ・節電対策の一環として、直射日光を遮り、夏期の冷房使用の低減を目的としたグリーンカーテンに取り組もうとする市民を対象に、ゴーヤの苗を無料配布し、グリーンカーテンの育て方について講習会を開催しています。 ・引き続き、グリーンカーテンの苗配布を実施し、身近な民有地緑化につなげていきます。	○平成28年度：50世帯 ○平成29年度：50世帯 ○平成30年度：50世帯 ○令和元年度：50世帯	90
イ)緑化活動等に関する表彰制度の創設	・ガーデニングなどの緑化活動に取り組む意欲をより高めるため、公開性のある度づくりや市民や企業の緑化活動に対する表彰制度を創設し、緑化活動の普及・啓発に取り組みます。		91
③緑化関連情報の発信			
ア)市民・企業との協働による緑化推進制度の普及・啓発	・みどりのまちづくりに関する市民や企業の主体的な意思が反映できる緑化推進制度として、緑地協定制、市民緑地制度、地区計画の決定による緑化率条例制度などがあります。 ・市民や企業に対し、これらの各種制度の普及・啓発を行い、緑化施策の幅を広げ地域の特色や実情に合わせた緑化の推進を支援します。		92
イ)市民・企業によるみどりのまちづくり活動紹介	・みどりに関する施策や事業、公園や道路、河川等における緑化活動、住宅や事業所の接道部緑化などの市民や企業の緑化活動、みどりのまちづくりの大切さや意義についての普及・啓発に取り組めます。	○市ホームページへの掲載(グリーンライフサークル、小田原駅周辺の花の回廊づくり、民有地緑化など)	93
(2)みどりの整備・管理に関わる市民力の強化			
①みどりのまちづくりに関する環境教育の推進			
ア)環境教育事業の拡充	・本市では「地域総ぐるみで子どもを見守り育てよう」、「地域コミュニティ全体が学び舎」などの考えから、地域で「スクールコミュニティ」の取り組みが行われています。本市は森林や農地、公園、河川、海岸など多様な資源があり、学ぶ環境に恵まれていることから、すでに実施されている環境教育事業(1-2(2)ウ)に、本市特有の資源を学習素材とした新たなカリキュラムの充実を図り、子どもたちの環境教育事業の推進を図ります。	○事業実績 ・平成28年度：市内小学校8校、合計440人 ・平成29年度：市内小学校9校、合計643人 ・平成30年度：市内小学校8校、合計586人 ・令和元年度：市内小学校13校、合計972人	94
②みどりの保全・育成・管理に関わる人材育成			
ア)森づくりボランティア養成と市民協働森づくり制度確立	・市民と行政が連携し、市は養成講座等の研修会を実施するなど、森づくりボランティアを育成します。修了者に市内の森づくり活動団体を紹介する、または修了者がボランティア団体を構成した場合、ボランティア活動を希望する土地所有者を紹介するなど、ボランティア活動に対して効果的な支援を行うことで、協働による次世代につながる森づくり活動の推進を図ります。 ・市内には、県の里地山活動認定の団体のほか、樹林地において継続的に森づくり活動を行っている複数の団体があります。これを森づくり活動団体として市が認定し、年間の活動計画の承認を受けることで、市は研修を修了したボランティアを紹介したり、より高度な技術研修を行うなどして支援を実施します。		95
イ)農業に参画しやすい環境づくり	・農業者の高齢化や後継者不在など担い手不足の農家が増加し、遊休化している農地も抱えています。一方では、都市化の進展に伴い土や自然とのふれあいを求める市民がいます。 ・そこで、農地の有効活用を図るとともに、農作業を通じた栽培技術の習得や健康づくりなど市民の余暇の充実と農業への理解を深め、農業の振興を図るため、農業者や市民団体と連携して、シニア層を中心とする市民が農業に参画しやすい環境づくりの推進を図ります。	○令和元年度 1団体を認定	96

施策名	事業内容	実績(平成28年～令和2年度)	施策番号
5-2 市民や企業等との協働によるみどりのまちづくりを進めます。			
(1) 市民や企業等との協働によるみどりのまちづくり推進			
① 市民や企業等との協働によるみどりのプロジェクト(再掲)	再掲(○森林:No.24, No.25 ○農地:No.23, No.33 ○海岸:No.16 ○河川・水路:No.97, No.32, No.34, No.35, No.36, No.38 ○都市公園:No.77 ○公共施設等:No.49, No.51, No.57, No.58, No.59)		再掲
② みどりに係る企業のCSR(企業の社会的責任)活動の場の提供			
ア) みどりの保全・創出に関わる企業のCSR活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CSR活動は企業の様々な社会貢献活動として関心が高まっており、平成26年度に行った市内企業アンケートによると、実際にCSR活動を実施している企業も多く、CSR活動について機会があれば取り組みたいという回答が多くありました。</li> <li>・商工会との連携やホームページなどを活用し、緑化に関するCSR活動に取り組みたい企業に対して、その手法や場所などについての相談受付や指導を行い、みどりの保全・創出に関わる企業のCSR活動の推進を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成28～29年度</li> <li>・「ライオンおだわらの森」ボランティア活動の実施</li> <li>・スポンサー花壇事業実施要綱策定</li> <li>○令和元年度</li> <li>スポンサー花壇事業 4基</li> </ul>	97
イ) 「(仮称)まちはなみどりスポンサー花壇事業」の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度に行った市内企業アンケートによると、スポンサー制の花壇事業への参加可能性については、約半数の企業から参加の可能性があるとの回答をいただいています。</li> <li>・CSR活動の一つとして、中心市街地や小田原駅、鴨宮駅などにおける植栽地に企業のPRプレートを取付け、花壇の維持・管理を行っていただく、もしくは維持管理を行う市民団体等に対しその費用を支援していただく「(仮称)まちはなみどりスポンサー花壇事業」に取り組みます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成30年度</li> <li>・小田原駅東口ベデストリアンデッキにスタンディング花かざり10基を設置。</li> <li>・スポンサー花壇事業実施要綱策定</li> <li>○令和元年度</li> <li>・スポンサー花壇事業 4基</li> <li>・花かざりの維持管理サポーター制度開始。</li> </ul>	98

施策名	事業内容	実績(平成28年～令和2年度)	施策番号
基本方針6 持続可能なみどりのためのマネジメントの促進を図ります			
6-1 多様な主体がともに手を結び、小田原のみどりのマネジメントを実施します。			
(1) 都市公園の再整備(リニューアル)の推進			
① 都市公園の再整備方針の策定			
ア) 都市公園の再整備方針の策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化や人口減少の進展により、市内に存在している既存の都市公園をどう活用していくのが課題になっていきます。こうした社会情勢の変化に伴う、公園利用ニーズの変化や利用者の多様化を考慮し、新たな公園の管理や運営、再整備のあり方を検討する必要があります。</li> <li>・公園の新たな活用方法、公園の指定管理者制度の活用、民間活力の導入などによる公園利用者サービスの向上など、パークマネジメントの概念も意識した都市公園の再整備方針の策定を行います。</li> </ul>		99
② 持続可能な公園のための仕組みづくり			
ア) 指定管理者による自主事業の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小田原フラワーガーデン、小田原こどもの森公園わんぱくらんど・辻村植物公園、上府中公園の指定管理者公募に際し、緑化の普及・啓発や環境学習、子育て支援等、さまざまな視点からの取り組みを自主事業として提案・展開してもらうよう要求し、指定管理者が一体となった事業の展開を図ります。</li> </ul>		100
イ) 都市公園の魅力向上のための収益還元の仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市公園法に基づく公園施設の設置管理許可制度の活用や小田原市都市公園条例に基づく使用許可、また、イベント開催時における緑化啓発活動と併せた募金活動など、都市公園の活用により発生する収益を増加させ、それを公園の整備や維持・管理に還元し、公園の魅力や利用者サービスを向上させることで来園者のさらなる増加へと循環していく仕組みづくりの検討を行います。</li> </ul>	○広報おだわらや市ホームページでのPRを実施。	101
ウ) 公園施設等の整備・管理等への民間活力の導入の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園に市民が関与できるような取り組みが少ない状況がある一方で、市民からは取り組んでいない理由として「きっかけが無い」「やり方がわからない」という声が出ています。また、行政が担ってきた公園の施設等の整備・管理は、今後、市民・企業・団体・行政が連携を図り、「新しい公共」による取り組みが求められます。</li> <li>・こうした要請を踏まえ、都市公園法に基づく公園の施設の設置管理許可制度の活用や、公園や施設のネーミングライツなど、民間企業が持つノウハウの活用や民間活力導入の検討を行います。</li> </ul>	○上府中公園のPark-PFIについて、業者へ打診。	102
エ) 公園施設等の寄付受納制度の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園に市民が関与できるような取り組みが少ない状況がある一方で、市民からは取り組んでいない理由として「きっかけが無い」「やり方がわからない」という声が出ています。また、行政が担ってきた公園の施設等の整備・管理は、今後、市民・企業・団体・行政が連携を図り、「新しい公共」による取り組みが求められます。</li> <li>・こうした要請を踏まえ、都市公園法に基づく公園の施設の設置管理許可制度の活用や、公園や施設のネーミングライツなど、民間企業が持つノウハウの活用や民間活力導入の検討を行います。</li> </ul>	○平成30年度川東タウンセンターマロニエの整備に合わせ寄附を受付。	103
③ 都市公園のストック適正化			
ア) 都市計画公園の長期未着手区域における見直しの検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本市の都市計画公園のうち、中央公園(城址公園・城山公園)、河原公園、板橋公園の3箇所は公園として利用されていますが、一部長期にわたり整備に着手できていない区域があります。この区域については、都市計画公園・緑地見直しのガイドライン(平成27年3月神奈川県策定)に基づき、必要性を検証しうえて見直しを行います。</li> <li>・また、今後も必要に応じて、都市計画公園・緑地見直しのガイドラインに基づき見直しを検討します。</li> </ul>	○平成29年度・河原公園の長期未着手区域について、廃止に関する都市計画変更を実施。 ・中央公園区域内にある小田原競輪場の今後に向けた検討会議を実施。	104
イ) 開発行為等による提供公園配置基準(仮称)身近な公園リニューアル事業	No.73再掲 No.76再掲		73再掲 76再掲
(2) 持続可能なみどりのための資金循環			
① ふるさとみどり基金をベースとした資金循環の構築			
ア) ふるさとみどり基金の利活用基準の作成や体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさとみどり基金は、昭和61年に目標積立額を10億円とし、運用利子を緑化等の事業充てる目的で設置しました。</li> <li>・緑化の推進や支援などを実施するには、まとまった資金が必要となります。本市におけるみどりのマネジメントを確立するうえで、ふるさとみどり基金は貴重な原資であることから、今後20年間で実施する事業の推進に有効に活用します。</li> <li>・この基金のあり方について検証し、基金を緑化の推進や公園の整備などに利活用するための基準や体制作り等の検討を行い、基金の強化を図ります。</li> </ul>	○平成29年度ふるさとみどり基金の一部を取り崩し充当する緑化事業計画を作成し、行財政改善推進委員会(市内部組織)で承認。(平成30年度～令和3年度) ○平成30年度ふるさとみどり基金の一部を取り崩し、城山公園の樹木整理や、まちなかの民有地緑化助成事業補助金等に充当。 ○令和元年度上府中公園の芝生広場の整備や、まちなかの民有地緑化助成事業補助金等に充当。	105
イ) ふるさとみどり基金の拡充と資金循環の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の継続的な緑化の推進や支援には、ふるさとみどり基金をより有効に活用して取り組む必要があります。</li> <li>・そこで、ふるさとみどり基金への寄付機会等の拡充による安定的な寄付と、それによる緑化の推進や支援を継続的に行うための資金循環の仕組みづくりに取り組みます。</li> </ul>		106
ウ) ふるさとみどり基金の「見える化」の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント開催時における緑化啓発活動と併せた募金など、わかりやすい募金活動を行うとともに、ふるさとみどり基金の透明性の確保やその存在を知ってもらうため、寄付件数や寄付額などの状況、使途が分かる事業紹介やそれに対する効果などの情報を発信し、ふるさとみどり基金制度の「見える化」に取り組みます。</li> </ul>	○市ホームページへふるさとみどり基金実績を掲載	107

施策名	事業内容	実績(平成28年～令和2年度)	施策番号
(3) みどりのマネジメントのための担い手づくりと連携強化			
地域の緑化団体への支援の拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共的な空間に花を植栽し維持・管理活動を行う団体は、市が開催する花苗講習会を受講して登録のうえ、花苗を提供していますが、人材不足により活動の維持が困難になってきているという課題があります。</li> <li>・持続的な緑化活動につながる人材確保を目指し、緑化活動を行う登録済の団体やこれから新規登録する団体の活動を広報でPRするなど、支援を実施します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成29年度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の緑化団体に活動報告を求め、活動内容を公表するための要項を策定。</li> <li>・地域の緑化団体の活動報告等により活動内容を確認し、市ホームページで公表。</li> </ul> </li> </ul>	108
公園指定管理者との連携による緑化の担い手づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来のみどりを確保するうえでは、緑化に関わる人材育成が欠かせません。</li> <li>・本市の「みどりの拠点」である小田原フラワーガーデンにおいて、指定管理者が植物や園芸に関する技術・知識を習得するための各種講座を開催しています。</li> <li>・緑化講習会等の開催など、みどりに関わる人材を育成する取り組みについて、指定管理者がもっている知識や企画力などを活かし、市民が将来の緑化に関わる担い手となるよう、指定管理者との協議により、人材育成への取り組みを促進します。</li> </ul>	○指定管理者との協議により、人材育成への取り組みを促進。(職場体験)	109
他分野の団体との連携・協力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内で展開されている緑化や、森林保全、環境保護に関する体験では、みどり・農業・環境など様々な分野の団体が活動を実施しています。</li> <li>・それぞれの団体の情報交換などを通して連携・協力し、みどり分野全体での担い手の育成につながる仕組みづくりに取り組みます。</li> </ul>		110
(4) みどり施策の進行管理のための取り組み			
「(仮称)小田原市みどり公園協議会」等の設置検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改訂した緑の基本計画の目標や施策について、達成状況や進捗状況の確認を行い、「PDCAサイクル」により必要な改善に取り組み、適切な進行管理を行うため、学識経験者を含めた「(仮称)小田原市みどり公園協議会」を創設します。この協議会を通して、事業実施上の課題整理やふるさとみどり基金の利用方針などについて協議していきます。</li> <li>・概ね5年ごとの緑被調査や市民アンケート等の実施と併せ、事業評価を行い、計画内容の見直しの検討を行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成29年度 <ul style="list-style-type: none"> <li>7月「小田原市みどりの審議会」を設立。</li> </ul> </li> <li>○平成30年度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・街路樹の管理、小田原こどもの森わんぱくランドリニューアル事業について審議を行い、緑の基本計画の進捗状況の報告を実施。</li> </ul> </li> <li>○令和元年度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・みどり公園課所管の条例改正のほか、緑の基本計画の施策の進捗状況の報告、久野霊園の合葬式墓地基本設計、小田原市緑の基本計画の改訂(見直し)の基本方針(案)について審議を実施。</li> </ul> </li> </ul>	111